



百里平和公園

2023年の初午祭

前夜の荒天を吹き払う400人の熱気！
集い、歌い、「安保3文書撤回」の決意を新たに！



▲梅沢百里基地反対同盟代表



▲百里弁護団 谷萩弁護士

■前日の荒天もモノともせず、東京平和委員会からも16人が参加

広大な航空自衛隊百里基地の真ん中にある百里平和公園において、半世紀以上も受け継がれて来た「初午祭」が2月11日(土)盛大に開催されました。心配された空模様



▲東京平和委員会の岸本事務局長

も晴天となり、百里原にヒューヒューと吹く風さえ清々しく感じられました。東京平和委員会からも16人が参加されるなど400人が集い、歌い、安保3文書撤回など決意を新たにしました。

百里弁護団の内藤功弁護士(日本平和委員会代表理事)から「『自衛隊は憲法違反』、これこそ百里闘争の精神です。自衛隊の戦闘機部隊は、海外の戦場に派遣されたことはありません。9条が自衛隊員の生命を守ってくれているのです。…『大軍拡・大増税許すな』『安保3文書撤回せよ』この決意を、初午祭にあたり、固め合いたいと思います」というメッセージが届き、谷萩陽一弁護士が読み上げました。県平和委員会の伊達郷右衛門さんは百里の闘いの歴史を知る「語り部」として、北海道矢白別演習場の闘いなどと重ね合わせ、汲めども尽きない話

の一端を披露してくれました。

■県内各地から多くの仲間が元気に

風間道夫鹿行平和委員会会長が、百里基地反対同盟代表の梅沢優さんから差し入れられた祝酒の乾杯の音頭を取り、「祭り」が盛り上がり、和やかになりました。早朝から準備された「赤飯」は無料で配られ、豚汁や甘酒の模擬店もあり、ヒューマンファーマーズの歌声を聞きながら談笑に花が咲きました。前日は雪景色だった下館平和委員会からも前田清さんたち6人が参集。また双山盛春さんが渾身の力で描いた「オスプレイ配備反対集会」等4枚の絵を展示し、注目されました。

■平和と暮らし、人権を守り発展させる決意を表明

「アピール」と「リレートーク」では、農民運動県連絡会、県平和擁護県民会議、社民党茨城県連合、日本共産党県委員会、新社会党県本部、日本山妙法寺など幅広い運動団体と個人が「日本国憲法」と「第9条」を破壊しようとする勢力と対決し、平和と暮らし、人権を守り発展させるために、さらに「不断の努力」をしていこうと訴えました。

栗又衛百里平和委員会事務局長が「2023年百里初午祭アピール(案)」を読み上げ、満場一致で採択されました。



▲日本山妙法寺のお上人(しょうにん)さま



▲伊達郷右衛門氏の訴え



▲お赤飯、いつもありがとうございます!



▲展示された平和の絵

**日本平和委員会
第2回理事会 (zoom) 報告**

▼内藤功代表理事



日本平和委員会第2回理事会が2月4日、5日の両日、対面とオンラインを併用しながら開催されました。「戦争か平和か」の岐路に立つ通常国会が開かれている中で、の理事会になりました。内藤功(弁護士)代表理事は、「中国を仮想敵国のように見て、日本を戦争する国に変えようとする安保3文書の改訂がおこなわれた。軍縮を求める私たちは、軍事費を削って社会保障に回せと訴えることが、軍事費増を主張する勢力と、論争のポイントになる。第9条(戦争の放棄)と第25条(生存権)は一体のものだ。大軍拡と大増税反対の運動を広げよう」と力強く開会あいさつしました。

■千坂純日本平和委員会事務局長から「第2回理事会活動方針案」が提案

1日目の全体討論では21人が発言しました。沖縄県平和委員会の大久保康博さんは安保3文書改訂に言及しながら「南西諸島の石垣島や与那国島にも自衛隊基地がつくられ、ミサイルが配備されようとしている。戦争になれば、戦火は“線”ではなく“面”で攻撃され、民間人が犠牲となる。専守防衛からの大転換について、国民に信を問え、と言いたい。しかし岸田内閣の支持率は低い、自民党の支持率は高い」と、「オール沖縄」で何度も選挙を闘ってきた経験も交えて話されました。

■「平和の問題は、自衛官のいのちの問題でもある」

2日目の発言で印象深かったのは、「自衛官のいのちを守る親

平和憲法破壊「安保3文書」の危険性を広く知らせ 失敗を怖がらず、入会の声を掛け続けよう!

(家族)の会」を立ち上げた宮崎平和委員会の樋口のり子さんでした。樋口さんは、「現場の自衛官はセクハラ、パワハラを受け、痛めつけられている。いじめなどによる自殺もある。平和の問題は、自衛官のいのちの問題でもある」と静かな口調で語りました。(樋口さんの息子さんは、護衛艦「さわぎり」内で自殺。国を訴え・人権侵害裁判で勝訴)また山口(在日米軍岩国基地)・静岡(東富士演習場)・東京(オスプレイ訓練)・神奈川(在日米海軍横須賀基地)・山梨(米軍機空中給油)などから軍事訓練の状況と監視活動や抗議集会に取り組んでいることが報告されました。茨城は、百里基地でのドイツやインド空軍との合同訓練・昼夜間訓練中止申入れ、百里初午祭への参加呼びかけなどを発言しました。

■「安保3文書改訂に関する学習会」を重視し、仲間づくりを積極的に進めよう

全国の平和委員会で共通していることは、「安保3文書」改訂に関する学習会など、学習会を重視しながら運動を展開し、仲間を増やす取り組みをおこなっていることです。青年部の代表からは「タネを撒き、声を掛けないと入会してくれない。が、失敗を怖がらず、仲間を増やし続けましょう」と。

■憲法にもとづく平和外交への転換求める世論を広げよう

討論のまとめでは、「憲法も平和も暮らしも根本から破壊することの大軍拡・戦争国家づくりに反対し、憲法にもとづく平和外交への転換を求める世論を広げ、3、4月の統一地方選挙で平和の審判を下す活動に全力をあげよう」を確認し、閉会しました。

陸上自衛隊勝田駐屯地が「水際作戦の訓練」を日常化! 「渡河訓練場」は、夜間訓練も実施

「軍事費を削って暮らしにまわせ」をあらゆるところで!

■阿字ヶ浦海水浴場で軍事訓練の実施が増えている

陸上自衛隊勝田駐屯地より「阿字ヶ浦海水浴場における訓練の実施について」という文書が地域住民に配布されました。目的は「阿字ヶ浦海水浴場を活用し、測量訓練を実施し施設技術等の習得を図る」とあります。日程は1月20日(金)と2月10日(金)の2日間。「人員約20名」で編成され、ゴムボート2艘を出し、「水深4m付近までの砂浜の傾斜」を測量するなど訓練内容が記載されています。水際作戦の訓練と思われませんが、2021年以降、阿字ヶ浦海水浴場での様々な訓練が実施されています。

■「ひたちなか平和の会」と「県平和委員会事務局」が訓練の監視と報告

写真は、2月10日に撮影したものです。「勝田駐屯地」で調べると「陸上自衛隊施設学校」「東部方面後方支援隊」「東部方面システム通信群」などが表示されます。また、ひたちなか市内に「勝田小演習場」「水戸渡河訓練場」「七会訓練場」をもっています。那珂川を使った「渡河訓練場」は、写真のように整備され、夜間訓練も実施されています。

■安保3文書に基づいた「積極的」報道がすすんでいる現実

改訂された安保3文書は、「有事と平時、軍事と非軍事の境目もあいまいに、防衛力の抜本的強化を始め、備えを盤石なものとし」(国家安全保障戦略)とあるように「戦時体制」に変えることが狙いです。また「自衛隊施設および米軍施設周辺の地方公共団体や地元住民の理解および協力を獲得していく」ために「積極的な広報を行う」(防衛力整備計画)とも書いています。今後、軍拡と増税が必要であるという「広報」がマスコミ等から盛んに流されることが予想されます。わたしたちは、「軍事費を削って暮らしにまわせ」と地域、職場などあらゆるところで広めましょう。

